

## 復興願い メッセージ



赤土坂子供会の児童たちが、被災地へのメッセージボードを制作しました。毎年この時期に実施していた花みこし担ぎを自粛。代わりにみこしに飾る和紙の花を使って「まけないで」の文字を形作り、周りには

児童が描いた絵と励ましの言葉を大幕に貼り付けました。まちが早く元気になってほしいとの願いと思いやりの心を込めたこのボードは、わかくさ・プラザのエントランスホールに展示されています。

# あんな事、こんな事



関市イメージキャラクター  
「関\*はもみん」



## 音楽で心を届けます

東日本大震災の被災者支援のための募金活動などを目的に、関善光寺癒しの会などの主催で、市内在住の安田葉子さんらによるアルパとオカリナ演奏の慈善コンサートが関善光寺境内で開かれました。自分たちにできることが少しでも役に立てばとの思いから計画。本場パラグアイから伝来の楽器が披露されると、来場者はその音色に酔いしれていました。

## 関刃物業界 物資を被災地へ

東日本大震災の被災者の皆さんへ、岐阜県関刃物産業連合会の呼びかけで、市内51業者の協力により包丁、はさみ、カミソリ、爪切りなど刃物類の生活物資5万個以上が集められ、市へ寄託されました。市では、いったん物資を保管して、今後の情報収集により被災地の状況、物資の需要を把握し届ける予定です。一日も早い被災地の復興を祈り、今後も支援を続けます。



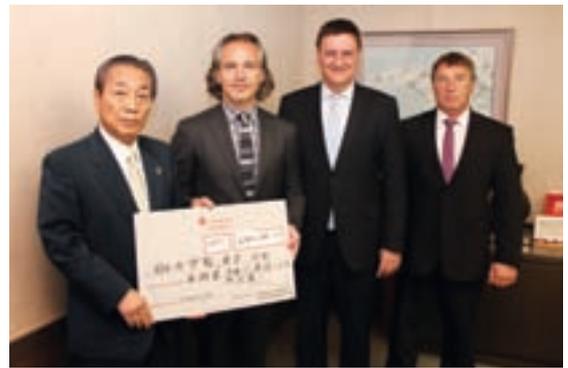


## 過疎対策の切り札

人口減少や高齢化の進む過疎地域集落の維持活性化を図るため、地域事情に詳しい人が住民の暮らしを手助けする「関市集落支援員」として、板取地域の篠田初男さん(老洞)と長屋峰男さん(岩本)が今回初めて任命されました。地域を巡回しながら住民の声を直接聞き、課題や施策の提言など幅広い活動を行います。地域住民の生活をきめ細かに支援し、地域課題の解決につながることを期待されます。

## 海外からも救済の手

ドイツ・ケルン市の医療用品メーカーのp f m社が市役所を訪れ、東日本大震災の義援金5万ユーロ(日本円で600万円)を寄託しました。震災の話聞き、同社が40年以上取引のあるフェザー安全剃刀株式会社の仲介で今回の訪問となりました。シェラー社長が「被災者に対し心からお見舞い申し上げます」と述べると、尾藤市長は「今回の縁を大切にしたい」と善意に感謝していました。



## 園児らがゴルフコースを駆け回る

子どもたちに春を感じてもらおうと、岐阜関カントリー倶楽部がゴルフ場を開放し、園児580人が招待されました。広々としたゴルフコースに満開の桜が咲く中、園児らは芝生の大広場をかけっこしたり、ダンボールでそり遊びなどを楽しみました。会場にはミナモとはもみんな駆けつけ、園児全員と一緒にミナモダンスを踊るなど、のびのび元気な姿を見せていました。

## 6月の解禁へ成育期待

6月1日の鮎釣り解禁を前に、長良川中央漁業協同組合が4月7日、池尻の長良川河畔で稚鮎を放流しました。この日は、県魚苗センターで養殖された大きさ10センチ、重さ10グラムほどの稚鮎約500キログラムが放流のために用意され、組合員らがバケツやホースを使い、手際よく川へ放流しました。同漁協担当者は「今年は遡上状況もよく、多くの釣り人に来ていただきたいです」と話していました。



## こぼれ話



今日は、久しぶりにお風呂で安全カミソリとシェービングフォームを使ってひげをそりました。いつもは毎朝電気カミソリを使いますが、時間のあるときは時々こうします。

この「いつもの生活」が出来ない方々が、たくさんいらっしゃいます。東日本大震災で被災された皆さんの多くは、ひげそりどころか、お風呂さえ…

被災地では爪切り、はさみ、包丁など日用品が求められているという情報から、52,000個を超える日

用品(もちろん新品)が、市内の刃物関連団体の皆さんから被災された皆さんへと寄せられました。義援物資、義援金も相当数が寄せられています。刃物の産地である関市ならではの取り組みといえます。

一人一人の力は小さいかもしれませんが、みんなで取り組めば大きな力になります。義援金を送る、省エネに心掛ける、必要以上の買い物を控える…これから私もどんな形でも、どんな小さなことでも自分ができることを見つけていきたいと思います。「がんばろう日本!!」